

## 東アジア古典学の方法第59回

# 文字世界のフロンティア

プログラム **総合司会** 齋藤希史 (東京大学)

10:30-12:00 第一セッション

「神功皇后紀という通路」

金沢英之 (北海道大学)

「日本書紀注釈における和語の役割」

徳盛誠 (東京大学)

13:30-15:00 第二セッション

「仮名文の中の真名」

田村隆 (東京大学)

『日本書紀』の歌における仮名表記の問題」

馬場小百合 (帝京大学)

15:15-16:45 第三セッション

「日本伝存王勃作品と出土墓誌

—唐代初期の文学の基盤について」

道坂昭廣 (京都大学)

「文字世界の外部としての「古」」

齋藤希史 (東京大学)

「東アジア古典学」とは、漢字文の読み書きを軸とする圏域において生まれ読まれた「古典」について、その形成・読解・注釈・変形・学習等々の実践を総体的にとらえることで、読み書きの圏域としての「東アジア古典世界」の構造を解明し、その歴史を記述し、知見を共有しようとするものです。これまで科学研究費の補助を受けて進められてきたこのプロジェクトは、今年度より、「国際協働による東アジア古典学の次世代展開——文字世界のフロンティアを視点として」(基盤A)として新たなスタートを切ることになりました。このプロジェクトでは、とりわけ「文字世界のフロンティア」、すなわち、ある文字世界が非文字世界もしくは他の文字世界の中で生成する局面、あるいは非文字世界もしくは他の文字世界と境界を接する領域に視点をおいて、漢字文以外の書記も含めた多様な事象を検討しつつ、その生成と構造のメカニズムの諸相を明らかにすることを目指します。今回のセミナーは、そのキックオフイベントとして、プロジェクトメンバーによるそれぞれの研究や視点による対話を軸に、プロジェクトの課題について討議します。

日  
程

2019年11月9日(土)

会  
場

東京大学駒場キャンパス  
18号館  
コラボレーションルーム 3

予約不要・来聴歓迎